

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	1. 職務の理解（6時間）		
到達目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第1分冊 理念と基本 第1章 職務の理解		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 多様なサービスの理解		0.5	【講義】 テキストを使い、介護保険制度について学ぶ。
(1) 多様なサービスの理解		2.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、①訪問介護サービス②小規模多機能型居宅介護サービス③施設介護サービス（介護老人福祉施設、介護老人保健施設等）④認知症対応グループホームサービス⑤居宅サービス（訪問介護サービス以外のデイサービス・ショートステイ等）⑥介護保険以外のサービス（障害者支援施設、宅老所）など、対象者やサービスの違いを知る。
(1) 多様なサービスの理解		0.5	【講義】 上記の講義により学んだ内容と担当講師の経験を伝え、介護職の意義・価値の理解を促進し、以降の学びを自発的に取り組める支援をする。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		2.5	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、(1)多様なサービスの理解で学んだサービスの違いや現場のイメージを具体的に知る。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		0.5	【講義】 介護の資格制度の変更や、今回受講する介護職員初任者研修の位置づけ、介護職のキャリアパスなどを知ること、受講生の学びの動機付けをする。
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	2. 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)		
到達目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第1分冊 理念と基本 第2章 介護における尊厳の保持・自立支援		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 人権と尊厳を支える介護		2.5	【講義】 テキストを使い、介護に携わる専門職として、その技術や知識の土台となる重要な基本理念である「基本的人権」や「個人の尊厳」について理解する。 また、プレゼンテーション資料を使い、施設等での実際の取り組みなどを伝え、学びを深める。
(1) 人権と尊厳を支える介護		0.5	【演習】 上記の学びを生かし、自分だったらどういった介護を希望するのか等をディスカッションし、理解を促進する。
(2) 自立に向けた介護		1.0	【講義】 テキストを使い、①個人としての尊厳②権利擁護③個人の尊厳と価値④社会的役割の実感について、その必要性を知る。
(2) 自立に向けた介護		0.5	【講義】 テキストを使い、介護分野におけるICFについてと、その必要性を知る。 実際使用しているアセスメントツールを使い、情報収集の方法を具体的に知る。
(2) 自立に向けた介護		1.0	【講義】 テキストを使い、QOL (生活の質) のとらえ方を知り、一人ひとりの違いを理解し、「その人がその人らしく暮らすためには」という尊厳の尊重について、理解を深める。
(2) 自立に向けた介護		0.5	【講義】 テキストを使い、今や福祉の基本的理念となったノーマライゼーションについて学ぶ。
(2) 自立に向けた介護		1.0	【講義】 テキストを使い、虐待防止・身体拘束禁止の重要性や法律を学ぶ。 プレゼンテーション資料を使い、視覚的にイメージ付けし、理解を促進する。
(2) 自立に向けた介護		2.0	【講義】 テキストを使い、ケア現場で必要な利用者の有する能力に応じ「できる行為をさらに増やす」介護を学び、利用者の意欲を引き出し、自立した生活ができるよう予防を含めた専門職としての援助法・支援法を学ぶ。 プレゼンテーション資料を使い、視覚的にイメージ付けし、理解を促進する。
合計時間数		9.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分 (0.5時間) を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容 (演習手法等) を、実習については実施方法 (学習目的等) を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)		3. 介護の基本 (6時間)	
到達目標		介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる視点を持つ。	
使用テキスト及び記載内容		財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第1分冊 理念と基本 第3章 介護の基本	
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護職の役割、専門性と他職種との連携		1.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、各サービスに必要な介護職種、サービスを提供する連携や流れを具体的に知り、介護職が行ってよい職域やケア、医療や他職種との連携が必要な職域やケア等を知る。
(2) 介護職の職業倫理		2.0	【講義】 テキストを使い、①法令遵守②利用者の個人の尊厳と介入③日本介護福祉士会の倫理綱領を学び、介護職に求められる倫理観、行動、意識、時代ニーズ等を把握する。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		1.5	【講義】 テキストを使い、事故予防、安全対策の重要性を学び、予防や対処法について知る。事例等を知り、原因と対策方法を知る。 プレゼンテーション資料を使い、視覚的にイメージ付けし、理解を促進する。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		0.5	【講義】 テキストを使い、注意すべき感染症とその対応、感染症の予防と対策について知る。
(4) 介護職の安全		0.5	【講義】 テキストを使い①介護職の健康管理②介護職に起こりやすい健康障害③腰痛予防④感染症の予防⑤ストレスマネジメントについて学ぶ。
(4) 介護職の安全		0.5	【演習】 予防体操、手洗い方法等を実際に体験する。
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分(0.5時間)を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容(演習手法等)を、実習については実施方法(学習目的等)を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（10時間）		
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを理解する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第2分冊 制度の理解 第4章 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護保険制度		3.0	【講義】 テキストを使い、1. 職務の理解、3. 介護の基本で触れてきた介護保険制度を、制度設立の背景、目的、動向、仕組み等について詳しく学ぶ。
(2) 医療との連携とリハビリテーション		4.0	【講義】 テキストを使い、①医療行為と介護②訪問介護③施設における看護と介護の役割・連携④リハビリテーションの理念等について学ぶ。 ※①②③は現職の訪問看護施設に属する看護師が担当、④は現職の作業療法士が担当するため、各講師が希望する講義2時間を計上。よって基準の3時間を超え、計4時間で計上する。
(3) 障害者自立支援制度およびその他制度		3.0	【講義】 テキストを使い、障害者自立支援制度について、制度設立の背景、目的、動向、仕組み等について詳しく学ぶ。
合計時間数		10.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
到達目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第2分冊 制度の理解 第5章 介護におけるコミュニケーション技術		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護におけるコミュニケーション		2.5	【講義】 テキストやプレゼンテーション資料を使い、介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割やコミュニケーション技法を学ぶ。 また、利用者・家族とのコミュニケーションの実際のケース、利用者の状況・状態に応じた方法等を学ぶ。
(1) 介護におけるコミュニケーション		0.5	【演習】 傾聴や共感の応答をロールプレイを通し体験してみる。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		3.0	【講義】 テキストや実際の個別援助計画書等を使い、記録の意義、種類、書き方及び記録に関わる法令について学ぶ。 また、テキストや講師の実際の体験を踏まえ、介護におけるチームコミュニケーションや報告の重要性、会議・情報の共有の必要性、ケアカンファレンス等の重要性について学ぶ。
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	6. 老化の理解（6時間）		
到達目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第3分冊 老化・認知症・障がいの理解 第6章 老化の理解		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常		2.5	【講義】 テキストを使い、老年期の発達と老化に伴う心身の変化と特徴について、また、老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響を学ぶ
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常		0.5	【演習】 講義で学んだ内容から、介護者としてどういった対応が必要か、ディスカッションし、理解を深める。
(2) 高齢者と健康		2.5	【講義】 テキストを使い、高齢者の疾病と生活上の留意点を学ぶ。 また、高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について学ぶ。
(2) 高齢者と健康		0.5	【演習】 講義で学んだ内容から、介護者としてどういった配慮・対応が必要か、ディスカッションし、理解を深める。
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	7. 認知症の理解（6時間）		
到達目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第2分冊 老化・認知症・障害の理解 第7章 認知症の理解		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 認知症を取り巻く状況		1.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、認知症ケアの理念として「パーソンセンタードケア」「認知症ケアの視点（できることに着目する）」等について知る。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		3.0	【講義】 テキストを使い、認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状を学び、健康管理の重要性、治療や薬物療法等を学ぶ。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		0.5	【講義】 テキストやプレゼンテーション資料を使い、認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴について学び、その対応法を知る。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		0.5	【演習】 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの体験 生活リハビリとレクリエーションで体力づくりと免疫向上法の体験 事例を通して認知症の方との接し方、かかわり方の体験。
(4) 家族への支援		1.0	【講義】 テキストやプレゼンテーション資料を使い、認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）について学び、家族への支援方法を知る。
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	行動障害の理解（3時間）※居宅介護職員初任者研修追加分		
到達目標	障害福祉制度及び障害者の方に対する介護の理解を深めるため、行動障害について理解する。		
使用テキスト及び記載内容	講師作成のオリジナルテキスト、参考資料、プレゼンテーション資料（非売品）		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
行動障害の理解		2.0	【講義】 講師作成のオリジナルテキスト、参考資料、プレゼンテーション資料を使い、①行動障害：行動障害とはどのような状態をいうか②自閉症の理解：行動障害を起こしやすい自閉症とはどのような障害か③自閉症の障害特性：コミュニケーションや感性の特性、転動性、時間・空間の整理統合、変更への対応や記憶の維持の困難さ、について学ぶ。
行動障害の理解		1.0	【講義】 講師作成のオリジナルテキスト、参考資料、プレゼンテーション資料を使い、①行動障害が起きる背景の理解：支援者の不適切な対応が行動障害を誘発していることを知る②行動障害を起こさせないようにするための支援とは：行動障害を誘発せず、本人が安心して自信を持って生活できるための支援、について学ぶ。
合計時間数		3.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス (学習計画)

科目名 (時間)	8. 障害の理解 (4時間)		
到達目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第3分冊 老化・認知症・障害の理解 第8章 障害の理解		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 障害の基礎的理解		1.5	【講義】 テキストを使い、障がいの画院園、ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方、ノーマライゼーションの概念を学ぶ。
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		1.5	【講義】 テキストを使い、①身体障害②視覚障害③聴覚、平衡障害④音声・言語・咀嚼障害⑤肢体不自由⑥内部障害⑦知的障害⑧精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む）等の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴を学び、対応方法などを知る。
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		1.0	【講義】 テキストを使い、家族の心理を学び、DVDを視聴し遠野市で実際に取り組んでいる地域の家族支援方法やボランティア団体の取り組み等を知る。
			※(1)(2)は現職の精神科病院に属する看護師が担当、(3)は居宅介護も担当する介護福祉士が担当するため、各講師が希望する講義3時間と1時間を計上。よって基準の3時間を超え、計4時間で計上する。
合計時間数		4.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	8. 障害の理解（3時間）※居宅介護職員初任者研修追加分		
到達目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について深く理解する。		
使用テキスト 及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第3分冊 老化・認知症・ 障害の理解 第8章 障害の理解		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
障害の理解		3.0	【講義】 テキスト、参考資料を使い、障がいの概念、ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方、ノーマライゼーションの概念を医学的側面からさらに深く学び、高齢者の介護との違いを理解する。 また、作業療法士の視点、看護師の視点から、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する知識を補い、理解をさらに促す。
合計時間数		3.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・ 基本的知識の学習（12時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第4分冊 技術と実践 第9章 こころとからだのしくみと生活支援技術		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 介護の基本的な考え方		2.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、改めて介護の基本的な考え方（理論に基づいた介護の重要性・法的根拠に基づく介護の重要性）を学ぶ。
(1) 介護の基本的な考え方		4.0	【演習】 個別の課題ケースを挙げ、受講生同士がディスカッションし対応を考える。その対応に対して、どういった対応が理論的にベターなのか、フィードバックする。 ※多様なケースを知ることは、自分が実際に職務に就いた場合に有効であり、今後の演習の動機づけとなることから、事例演習時間を多く取り入れる。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		3.0	【講義】 テキストを使い、介護職に必要な老化や障害によるこころの変化とその根拠・理論を学ぶ。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		3.0	【講義】 テキストを使い、介護職に必要な基礎的な人体の名称、働き等を知り、こころとからだを一体的に捉え、介護職として、利用者の普段との違いに気づく視点を持つ重要性を学ぶ。
合計時間数		12.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術の講義・演習（4）～（6）（51時間 内15時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第4分冊 技術と実践 第9章 ころとからだのしくみと生活支援技術		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(4) 生活と家事		2.0	【講義】 利用者の生活習慣を尊重しながら、介護職として必要な身体介護の知識、家事援助の知識、生活援助の知識を学ぶ。
(4) 生活と家事		4.0	【演習】 利用者の気持ちになり支援できるよう、紙おむつ体験、身体硬直体験等をし、自由にならないはがゆさを体験する。
(5) 快適な居住環境整備と介護		2.5	【演習】 目隠しして施設を歩く、手すりのない段差を降りる等を体験し、老化による身体の不自由さを体験する。その上で、必要な住環境の整備や必要となる車いすや介護ベッド等を実際に見る、操作する等の体験をする。
(5) 快適な居住環境整備と介護		0.5	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、施設や訪問介護で使用される用具について学ぶ。
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		1.0	【講義】 整容行動とは何かと、介護職として必要な整容行動の介助方法について学ぶ。
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		5.0	【演習】 爪切り、歯磨きや口腔ケア、片マヒの人の衣服の脱着、整髪介助、洗面介助（男性の髭剃り）等を演習する。
合計時間数		15.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術の講義・演習（7）～（9）（51時間 内18時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第4分冊 技術と実践 第9章 ころとからだのしくみと生活支援技術		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		5.5	【演習】 体位交換、ベッドからの移乗、歩行介助、車いすによる移動等を演習する。
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		0.5	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、演習のポイント、また利用者の社会参加の意味を学ぶ。
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		1.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、食事の意味、食事摂取のしくみ、加齢や障害に伴うさまざまな症状を学ぶ。
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		5.0	【演習】 利用者が食べやすい食事の献立・調理の演習。 トロミをつけた飲み物の試飲。 食事介助演習（座位・ベッド上） 食事介助の食器等を実際に体験する。
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		1.0	【講義】 利用者にとっての入浴の意味・効果を学ぶ。 加齢や障害による入浴のリスクについて学ぶ。
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		5.0	【演習】 入浴介助演習（※施設内に個浴施設あり） 清拭演習 手浴・足浴演習 洗髪演習
合計時間数		18.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. ころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術の講義・演習(10)～(12)（51時間 内18時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第4分冊 技術と実践 第9章 ころとからだのしくみと生活支援技術		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.0	【講義】 加齢や障害による排泄に関する様々な症状や、排泄介助に関する利用者の気持ち等を学ぶ。
(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		4.0	【演習】 トイレの種類、尿器・便器の種類、失禁ケア用品、オムツの種類を知り、移動・移乗を含む排泄介助、オムツ交換の演習をする。
(11)睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		2.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、睡眠の役割や睡眠障害の種類、また睡眠障害に対する対応法について学ぶ。
(11)睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		4.0	【演習】 シーツ交換の演習 身体的要因の緩和演習 移動を含む安楽な姿勢・体位交換演習
(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護		3.0	【講義】 テキストとプレゼンテーション資料を使い、終末期ケアについて学ぶ。
(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護		3.0	【演習】 事例やワークを使い、自分の終末期を考えてもらい、ディスカッションによりその想いを共有する。その上で、改めて「利用者の尊厳保持」という介護の基本的な考え方の理解を深める。
合計時間数		18.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間） ・生活支援技術演習（12時間）		
到達目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を修得する。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第4分冊 技術と実践 第9章 こころとからだのしくみと生活支援技術		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(13)介護課程の基礎的理解		1.0	【講義】 テキストを使い、改めて介護課程を理解し、アセスメントによる科学的な根拠に裏付けされた利用者の尊厳の保持や自立につながる介護について学ぶ。
(13)介護課程の基礎的理解		4.0	【演習】 テキストの事例を使い、アセスメントを考える。
(13)介護課程の基礎的理解		1.0	【講義】 テキストを使い、介護の計画の立て方、計画に沿った実施と評価・修正の留意点について学ぶ。
(14)総合生活支援技術演習		6.0	【演習】 事例提示⇒こころとからだのちからが発揮できない要因の分析⇒適切な支援技術の検討⇒支援技術演習⇒支援技術の課題
合計時間数		12.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。

(様式例2)

科目別シラバス（学習計画）

科目名（時間）	10. 振り返り（6時間）		
到達目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。		
使用テキスト及び記載内容	財団法人介護労働安定センター介護職員初任者研修テキスト第1分冊～第4分冊		
項目名	時間数		学習内容
	通信	通学	
(1) 振り返り		1.0	【講義】 テキストを使い、研修をとおして学んだことの要点チェック。
(1) 振り返り		2.0	【演習】 研修をとおして学んだこと、今後継続して学ぶべきことをディスカッションし、発表。意識を共有する。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		1.5	【講義】 プレゼンテーション資料を使い、遠野市内又は遠野市近郊の施設で行っている研修や取り組み等を紹介し、介護職員として勤務する上で課題となっている内容や研修のポイント、地域の特性としての課題等を整理していく。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		1.5	【演習】 介護職として働くにあたり、不安に感じている点を最終確認し、フォローを入れる。
			※職業訓練における資格取得であるため、講義時間の基本を3時間で計上。よって基準の4時間を超え、計6時間で計上する。
合計時間数		6.0	

※別紙2に基づき、科目毎に到達目標を設定すること。

※学習時間は項目毎に設定し、各時間配分は、30分（0.5時間）を最小単位とすること。

※学習内容の欄には、講義、演習または実習の別を記載し、それぞれの内容を記載すること。なお、演習については実技内容（演習手法等）を、実習については実施方法（学習目的等）を記載すること。

※通信学習の場合は、課題の概要等を記載すること。